

第三回「鶴川第一小学校改築計画検討委員会」会議録

日 時：2012年4月27日（金）15：00～16：40

場 所：鶴川第一小学校 児童会室

出席者：【委員】

金子委員（野津田町内会） 佐藤委員（野津田町内会）

新倉委員（小野路町内会）

八木委員・亀崎委員（鶴川第一小学校PTA）

村上委員（鶴川第一小学校長）

【関係職員】

佐藤施設課長 田中学務課長 高橋保健給食課長

安齊統括指導主事 谷教育センター担当課長

金子営繕担当部長 高原営繕課長 営繕課職員1名

【事務局】

内山教育総務課長 小瀬村教育総務課担当課長

施設課常盤・黒滝 教育総務課持田

【会議録】

1. 第二回会議録の確認

事前送付した会議録の内容について確認したところ、質疑もなく原案どおり了承される。

2. 改築計画について

【前回の検討内容を反映した西側校舎配置案第9案を提示】

前回の審議内容を踏まえ、ピオトープと南側道路、トラックにサッカー、野球のコートを記載した図面を提示する。トラックが1周150m、サッカーコートは縦35m、横70m、野球の両翼は50mになる。校舎の奥に体育館を配置し、さらに奥がピオトープになっている。ピオトープに隣接して学童保育を設置することもできる。体育館の跡地が空くので、プールはとりあえず既存のまま図面に落としてあるが、建設費が節減できれば、移設することも考えられる。これを元に基本設計に入る。多少変更になることもある。フェンスから12m下がったところに南側校舎を配置する形になっている。現在のフェンスから5m校庭側に下がり、その部分に歩道を設置する予定である。2階建ての部分については屋上緑化も検討している。

【図面に関する質疑・要望】

○工事が始まると学童保育が工事箇所にかかるが、どのようになるか。

→児童青少年課と調整して検討することになっている。体育館の横

に移転させようかと考えている。仮設の学童は現校舎裏側の川沿いにと考えている。

○今年は大丈夫だったが、来年度クラス増の可能性があると、現在のプレハブには校舎の増設が必要になる。またプール改修の場合は、どの程度になるのか。ぜひ改築の方向で考えてほしい。

プールが離れてしまっているのは、好ましくないのではないか。

プールはできるだけ校舎に近いほうがいい。プールと生活の場が離れ、水着のままサンダルで移動するのはよくない。

→プールはできるだけ改築の方向では考える。プールを移設すると運動場も広くなる。

○歩道が広がるとのことだが、不審者対策を心配している。実際に監視カメラを動かして侵入した事例も報告されている。

○体育館跡地にプールができた場合の日当たりはどうか。

現体育館のところは校舎が建設される場所より2mほど高くなっている。実質は5mほどの高さになると思われる。

→東側は日陰になるところができる。日が当たりすぎると逆に日よけが必要になる。南側は2階建てで7m程度になる。

○現在体育館のある場所の段差部分が子どもたちの遊び場となっていて、安全上好ましくない。段差解消できないか。

また、太陽光パネルは設置されるか。

→現在体育館部分の段差は、校舎を建設することでなくなる予定である。太陽光パネルは何kw設置できるか未定だが、設置予定である。小学校は10kwのものを設置しているが、もう少し出力の大きいものを設置できるかもしれない。南側校舎は2階建てで屋上が見えるので、屋上緑化も検討している。トイレはできれば雨水利用したい。

【基本・実施設計指針（案）を提示】

これまでの検討結果を基に、基本設計を実施していくが、その際に指示書として提示するのが、基本・実施設計指針（案）になる（全4ページ）。基本コンセプト、教育目標、小学校施設整備の基本的方針、設計条件各項目について確認する。

補足として

- ・ライフサイクルコストを抑えた計画とし、高効率な設備機器、LEDや節水便器などコストが抑制できる機器を活用していく考えである。
- ・教室配置平面計画では、図書室とパソコンルームをつなげて、調べ学習を促進する教室配置の工夫をする。

この基本・実施設計指針（案）を基に、今年度3月までの予定で基本設計、来年度実施設計を依頼することになる。基本設計で配置図、平面

図、仕上げ表等を確定し、実施設計では、構造、カーテンなど細かい部分、構造図、設備部分、工事費の積算などを依頼する予定である。

今までオープン型教室を中心にしてきたが、事例集や実施されている学校の感想などをふまえると、あくまで1クラス15人くらいの児童・生徒数が限度である。1・2年生には不向きであるとの結果もある。今回は28学級を想定している。また、オープン教室にすると、1.6倍の面積が必要になる。さらに、オープン教室の活用に関し、教員の活用実態や教育効果の検証も十分になされていない現状から、できれば今回はオープン型は採用しない方針としたい。オープン教室のメリットとしては、模造紙を広げたりといったスペースを広く取ったりする作業に向いている。教室外のスペースで学年集会が持てるなどの利点は確認できている部分である。

【基本・実施設計指針（案）の説明を受けての意見・要望】

- 前任校はオープン教室で、保護者がいつでも授業を見られるのがメリットであったが、廊下は声が聞こえてしまうので落ち着かない子どもには厳しい。
- かつてはオープンスペースに机を置いて教員が作業するなどの積極的な活用例もあった。大規模校では混乱をきたすのでなかなか難しい。コンパクトなつくりはいいが、安全性を考えた最低限のスペースは確保してほしい。
- 体育館、昇降口もある程度余裕をもった構造にしてほしい。火災、地震などではどうしても集中してしまうと思われるので。
- 運動会時など限定的に学校内のトイレを使用しているが、外トイレがあるといいので、設置の方向で検討してほしい。
→外トイレは災害時にも有効なので、いいと思う。
- 遊具や砂場の整備はどうなっているか。体育倉庫などが置かれると校庭が狭くなる恐れがある。更衣室は体育館にしかないが、現在は3年生くらいになると男女一緒には着替えさせられないので、別々に設置してほしい。
大規模校だと複数のクラスが一度に体育の事業を行うことが十分想定されるので、複数の更衣室を設置してほしい。
→更衣室を増やすことは可能である。
- トイレについては、災害時体育館が避難所になると思うので、多めに設置してほしい。水がなくても使えるトイレの設置を希望する。外トイレは体育館もそうだが、校舎側にも設置されると、生涯学習関係団体の利用にも活用できる。
→あらゆる災害に対応できるように、トイレは多めに設置しようと思っている。

- 設計は2年もかけず、なるべく早期に完成させてほしい。
 - 現在計画ができあがるところで、次に設計になる。通常全部で5年はかかる。児童数がどうなるか、今後の児童推計の動向や、学童保育はどのくらいの規模が適正かなど、基本設計できちんとつめる必要がある。
 - また体育館についても、ここにできるものが今後のモデルとなる。トイレの数などを含め、学校だけでなく防災関係との調整も慎重にしなければならない。現在の校舎の使い勝手（六角校舎、トイレの配置等）をきちんと検証して改築校舎に生かさなくてはならない。
- 基本設計は非常に重要である。時間を制限すると、安易な方向に流れてしまうことがある。多少時間をかけてもしっかりやった方がいい。特別教室（理科室、図工室、音楽室、パソコン室、家庭科室、図書室など）の中でも、図工室と音楽室は音の問題がある。特に音楽室は防音設備が必須である。
- 鶴川中学校のような防音設備のあるホールがほしい。音楽室としても適していると思う。特徴のある学校にしたい。シンプルにすると、昔風の寂しい造りになるのではないかと心配である。
 - 学校建設には最新なものを取り入れていく傾向がある。オープン型も六角校舎も当時の流行である。流行を追うと長年使っているうちに使い勝手が悪くなることもある。
- 基本的にはベーシックがいいのかもしれない。児童数の推移をみていくなかで、学校選択制度が重要になってくる。学校としては来年何クラスになるのかぎりぎりまでわからないのは困る。今後の人数が読めない。
 - 選択制度については、現在教育委員会で検討している。3月の答申を受けて、現在検討中である。選択制度がある中でも、約90%の児童・生徒が地元に通っている。通学距離を中心に考えている。
- 選択制度によって、どこにでも通うことができるので、保護者と町内会内の交流ができにくくなってきている。横の連絡がなくなるのはどうか。結束ができるのでやはり地元に通うのがいい。
- 湧き水利用について、毎分50リットルを想定しているが、枯れない前提で問題ないか。枯れた場合はどのように対応するのか。
 - プールに湧き水は利用できないのか。
 - 水質が下がっているとのことだがどうか。
 - 枯れない前提で考えているが、上流の状況では止まることもまったくないわけではない。その場合も問題が起こらないよう工夫する。スプリンクラーは雨水利用を考えている。雨水貯水地下タンクは5tくらいを検討しており、雨水で不足する時期は水道水を

- 充てる。プール用としても使えるが、水温が低すぎるのではない
か。水質的には塩素をいれれば、使用には問題ない。水質は検査
をして使用には支障ない。飲用にも使用できるレベルである。
- 体育館はどのくらいの大きさになるか。900人規模の児童が入れる
広さを確保してほしい。
- 函師小学校と同等の900㎡を予定している。形状はカマボコ型
にはしない予定である。函師小、小山ヶ丘小、小山中央小程度を
予定しているが、財政事情が厳しい折、華美なものは難しい。
- 設計指針（案）にある Low-e ガラスとはどのようなものか。震災
時にガラスが飛散しない配慮もお願いしたい。
- 二重ガラスの中がコーティングになっていて、断熱効果が高い。
新庁舎の西日対策に活用されている。紫外線カットの効果もある。
夏の西日、冬の寒さ対策に効果が期待できる。民間施設では、使
用が一般的である。また、全室に学校専用強化ガラスが入ること
になっている。ベランダの設置についても、有効であると考えて
いる。屋外への落下防止にもベランダがあると安全性が高まる。
また、グリーンカーテンや清掃、外壁塗装の際もベランダがあると
便利である。窓から距離があるので、庇により日よけ効果も期
待できる。
- 都内の学校のような全天候型トラックを作ることはないか。校庭か
らのほこり対策になる。
- 全天候型はあまり評判がよくない。やけどなどのけがが増える。
むしろ近隣住民のほこりに対する要望に corres 応えるために、苦肉の策
として設置していることが多い。グリーンダストも風などで砂が
減ってしまい、効果が薄い。
- 水はけが悪いので、十分考慮して対応してほしい。東京都は校庭芝
生化推進というが、管理が大変なので難しいと聞いている。
- 給食の搬入路についても明記してほしい。駐輪場も設けてほしい。
- 【今回の検討内容を考慮した確認事項について】
- 契約を進めるうえで、指針を早急に作成したい。契約後でも変更は
できるので、細かいことは基本設計に反映させることができる。今
回の各委員からの意見を反映して各委員あて送付するので、今後集
まる必要があれば別途通知をさせていただきたい。今後の段取りと
しては、基本設計で決まったことなど定期的に報告していくように
したい。
- 今回3回の検討委員会での決定事項として、
- ・校舎の形状をZ型にするということ
 - ・詳細な内容については基本設計に反映させること

を確認する。設計事務所が決まってくると、よりよい案が提示されることもあるので、細かい部分はこれから決めていくこととしたい。現段階であまり縛られず、幅をもたせたほうが良いと思う。

- 基本設計契約にあたり、設計指針（案）を固めたい。細かい部分については、基本設計のなかで検討していける。

今後は会議形式によらず、送付する資料で確認いただき、何かあれば連絡いただく形にしたい。

【今後の予定】

今回の検討内容を盛り込んで作成した基本・実施設計指針（案）を各委員に確認していただき、その結果をもって基本設計委託を実施していく。今後は設計業者選定後、随時必要に応じて報告の機会を設けていくこととする。（次回開催については未定）